

ころばん体操 出前講座 大原南公民館

平成28年8月19日(金) 9:00~11:00

参加者 計23名 (男性2名 女性21名)

【講話】

I・「いつまでも自宅で暮らすために」・・・(在宅医療)

いちき串木野市包括支援センター 保健師久保小百合

日本人の死亡率は・・・人は必ず亡くなる 100%の死亡率です。
どこで最期を迎えたいか、どんな生活を受けながら最期を迎えたいか一人一人がこれを機会に考えてみてください。

健康年齢は、だいたい10年と言われてます。

地域で支え合って元気で自宅で過ごしていけることが大事です。
が介護が必要になってしまう事もこれから少し考えてみていただきたいと思っています。

市が行った地域のアンケートでも自宅で最期まで暮らしていきたい人が41%、考えたことがない人36.3% 病院の人は11%でした。やはり自宅で最期まで暮らしたい人が多いです。



II・「がんばりすぎない介護を応援します」 退院支援について

いちき串木野市医師会 在宅医療・介護連携推進事業

コーディネーター 南新 敦子

- 退院に向けて入院中から院内スタッフ、在宅関係スタッフが連携を取り在宅生活への準備を支援します。ご家族の介護負担がすこしでも軽くできるようにサポートしていく相談も受けています。介護度や高い患者さんや医療が必要な時でも、訪問看護等を利用しながら自宅生活を続けられるようサポートしていきます。家族や、ご本人の想いに沿って在宅での生活を希望され退院された事例を聞いて在宅支援のイメージを知っていただきたいと思います。



参加者の声

- もし亡くなるとしたらやっぱり”じっくり”よりは”ポックリ”の方がいいとのご意見はほとんどでした。
- 家で見てもらうのは、迷惑がかかるし、病院は、お金がかかるし、どこがいいのか、よくわからないね
- そんなに云うけど、実際の介護は大変だと思うよね。
- できれば、介護されないで元気でいたいね。

一つ一つの
話に熱心にう
なずいていた
だきながら聞
いていただき
ました。